令和 4年6月3日

嬉野市議会
　議長　辻　浩一　様

総務企画常任委員会
委員長　宮﨑良平

総務企画常任委員会報告書

令和4年第1回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告する。

付託事件名　「防災について」

調査の理由

近年、異常気象における災害は激甚化し、嬉野市においてもここ数年大雨特別警報が発令され、大規模な地すべり等、市民の生活を脅かすような異常事態が頻発している。

そのような中、市民の安全・安心を守るため大きな役割を担う嬉野消防署新庁舎、また令和2年豪雨災害で被災した市道永尾線及び令和3年に被災した南下地区、大舟地区、湯野田木場地区の現況と今後の見通しについて調査を行った。

嬉野消防署新庁舎

調査日　令和4年4月12日（火）10：00～12：00
場　所　嬉野消防署新庁舎　　嬉野市嬉野町大字下宿甲30番1
対応者　嬉野消防署長　　中原彰宏 氏　外1名

【嬉野消防署新庁舎概要】

・庁舎棟　　敷地面積：6133.45㎡　構造：鉄骨造　階数：地上2階建て
　　面積：建築面積：823.04㎡　延べ面積：1330.57㎡

・訓練棟　　構造：鉄筋コンクリート造　階数：地上4階建て
　　面積：建築面積：68.00㎡　延べ面積：209.10㎡

【新庁舎の特徴】

・旧庁舎と違い、執務スペースや緊急車両用車庫のスペースが十分に確保されている。
・訓練施設が設置され、日常的に質の高い訓練を行うことができる。
・女性消防職員の就業環境整備、庁舎見学、研修会等、女性が来庁しやすい環境。
・出動において、仮眠室、出動準備室、車庫等、効率的な導線が確保されておりスムーズな出動態勢が確保できる。
・新型コロナウイルス感染症における患者搬送後の救急隊員の感染症対策についても十分なスペースが確保できる。

【課題】

・近隣の土地より数メートル高い場所に建設されているものの、近年の記録的な集中豪雨等において周辺が冠水することも考えられる。その際の臨時的な機能移転、及び車両等の移動先も市と連携し対処していくべきと考える。

地滑り被災箇所

調査日　令和４年４月 12 日（火）13：00～17：00
場　所　市内地滑り被災箇所
　　南下地区・市道永尾線・大舟地区・湯野田木場地区
対応者　嬉野市役所　行政経営部長、建設部長、
　　総務・防災課長、建設課長、防災危機管理室統括監

【南下地区】
・14 世帯 39 名　(R3.8.31 現在の避難指示対象)
・令和３年８月豪雨において被災
・約 24,000 ㎡において地滑りの兆候
・急傾斜地域でもあり擁壁にて土砂を堰き止め家屋倒壊等の被害は免れている
・道路、民家、農地等に多数亀裂が確認できる
・国の災害関連緊急地すべり対策事業の採択を受け調査中
・赤色回転灯４基、サイレン６基

調査・観測数量
調査ボーリング N＝12 本、地盤伸縮計 N＝2 基

【市道永尾線】
・令和２年７月豪雨において被災
・下野地区から吉田・下吉田地区を結ぶ生活道路である
・道路の陥没及び亀裂、護岸の崩壊等がある
・耕作地に連続的に発生する段差を伴う亀裂
・地形調査面積約 20,000 ㎡
・調査において一年ほど大きなひずみや動きが見えなかったが、令和３年の豪雨にて確認され、調査のデータを基に復旧の計画中

調査・測量数量
調査ボーリング N＝5 本、パイプ歪計 N＝3 本、地下水位計 N＝3 本
地盤伸縮計 N＝2 基

【大舟地区】
・25 世帯 65 名(R3.8.31 現在の避難指示対象)
・令和 3 年 8 月豪雨において被災
・約 48,000 ㎡において地滑りの兆候
・大きな地すべりがあり家屋全壊、半壊等見られる
・道路、家屋に多数の亀裂が見られ被害の大きさが顕著に見える
・県道下の法面に大きなふくらみが見え、大型土嚢により押さえている
・国の災害関連緊急地すべり対策事業の採択を受け調査中
・赤色回転灯 8 基、サイレン 9 基、通行止めバリケードも常置

調査・観測数量
調査ボーリング N＝17 本、地盤伸縮計 N＝5 基

【湯野田木場地区】
・令和 3 年 8 月豪雨において被災
・湯野田木場地区から内野内野山地区を結ぶ生活道路である
・道路面及び擁壁に多数の亀裂が発生し、家屋等にも亀裂の発生が確認できる
・地形調査面積約 25,500 ㎡
・現在、調査ボーリング工事中で雨期前に設置完了予定

調査・観測数量
調査ボーリング N＝9 本、パイプ歪計 N＝9 か所
地下水位計 N＝9 か所、地盤伸縮計 N＝3 基

【委員会の意見】
・嬉野消防署新庁舎においては、旧庁舎とは違い敷地面積が広く、これまで課題であった近隣住民に迷惑をかけず訓練や車両点検等ができ、複雑多様化する災害に対し、迅速に効率的に対応できるよう建設されている。また、今後の目標として、杵藤地区圏内の女性職員を全体の5%まで引き上げていく目標の中で、女性専用の仮眠室等を計画どおり建設されており、女性職員が働きやすい環境への変革の兆しを感じた。また、視察中にも新型コロナウイルス感染症の疑いのある患者搬送時の出動から帰還までを視察したが、完全防護での感染症対策に比較的涼しい4月の初旬ではあったが、汗だくで対応される姿に頭が下がる思いであった。
　今後、議会としても市民の安全・安心のため従事されている消防隊員の就業環境への理解及び協力等に努めていくことも必要と考える。また、近年の豪雨災害における消防署周辺の浸水被害も想定し、車両などの緊急移転先についてもしっかりと協議していくべきである。

・市内の地すべり地区において、今回4か所の視察を行ったが未だ完全復旧には程遠い過程にある。調査等は常に行われているものの、被害の全容や、地すべりの兆候を把握することが重要であり、長期的観測が必要とされる。
そのため被災地域住民への現状及び今後の復旧計画の説明等は、こまめに対応が必要だと考える。
　そして、今年もまた雨季が訪れ、近年続くような記録的な豪雨が来るものだと想定したうえで、市民の安全・安心を守っていくよう努めることが行政の役割であると考える。そのような中で、特に住民への被害が直接的に及びかねない南下地区、大舟地区においては、どこよりも警戒を強め、早めの避難所開設及び避難指示にも努め、大規模な被災箇所から少し離れてはいるものの、木場の集落においても同様の対処をしていくよう努めていただきたい。
　ここ近年の異常気象における激甚化、頻発化する豪雨災害は防ごうと思っても簡単に防げることではない。市民の安全・安心を守るべく、いかに被害を最小限に食い止められるかがカギになってくると考える。嬉野市議会においても、更なる調査・研究を進め市民の安全・安心につながるよう努めていくことが重要である。